

風に吹かれて地球を歩く

North European Blowin' in the Wind

THE 1Xth IOI WORLD CONFERENCE
AND THE SWEDISH PARLIAMENTARY OMBUDSMEN
200 YEARS ANNIVERSARY STOCKHOLM, SWEDEN



人生の記念ふれ愛紀行

Written by Kimura Masahito



アーランダ空港に向かう航空機



郊外電車



ホテルに近い毎日乗り降りした駅



フィンランド航空客室乗務員

フィンランド航空機は、高度三千メートルを保ち、ゆっくりと水平飛行にはいり20分ほど飛び、草原と湖の中にあるアーランダ空港に着陸した。タラップを降りると、草原にささやきながらかけてきた北欧の風が流れてくる。

風は心の便りびと

ささやけば、踊り廻り音となる

寄り添い逢うなら音は楽しくなるものだ。

そう、詩（うた）は風と自然（じねん）のハアモニイ

大いなるものに包まれた自分の存在を確認し

見つめ直すひとときを求め

そよ風を体に受けて8日間滞在する国に着いた。何故か、ふと昨日のことを思い出した。バスは、前泊するホテルに向かっていると、成田空港のゲートで2名乗り込んできて身分証の提示が求められた。そしてバスは成田エアポートレストハウスに到着して、わたし以外は降りてしまった。空港内ではホテルの名称にできないらしく、帰国者対象のホテルで何かあった場合、このレストハウスに宿泊するらしい。空港内のホテルなので近くて便利、バスも空港ターミナルに20分ごとにホテルより出ており、駐車場も安価で紹介している。

1974年（昭和49年）より各地を訪問して初めての先進国で、今までは、年に数カ国秘境と言われるところばかり訪問してきた。3日間梅干しとミネラル水で過ごしたこともあったが、それでもお腹をこわしていた。アンデスの高山病が一番つらかった記憶がある。歯磨きもミネラル水、泥水しか出ない風呂の記憶が浮かんでくる。旅行ガイドブックは現地の状況を十分に表示していないことがあるので、ネットの紀行文を数種類比較して参考にするのもよい。

インフルエンザが世界各地で発生しており、帰国後周りの方々に迷惑かけるとのことで手続きが遅れ、ホテルは出国の3日前に決まった。全て一人で行わなければ成らない。Eチケットとホテルの予約券をパソコンから印刷して出発した。

スウェーデン訪問の目的は、国際オンブズマン世界会議とスウェーデン議会オンブズマン制度創設二百周年記念式典に参加するためであり、世界各地より356人、85ヶ国より集う。「オンブズマン」とは、一般に高い識



空港ショップ



セントラルステーション（中央駅）



豊富な食材市場



エクスプレスの自販機



中央駅周辺と教会

見と権威を備えた者が国民の行政に対する苦情を受け付け、中立的な立場から原因を究明し、是正措置を勧告することによって、簡易、迅速に問題を解決する制度です。

ombudsmanと表記しスウェーデン語である。

スウェーデンでは、国王が周囲の諫めも聞かずに他国との戦争に臨んで敗戦の挙句自らも戦死したという場合に、休戦を取りまとめ軍を率いて帰国するという権限が王の宮廷関係者に与えられていました。

このように、様々な事由から国家（権力者）による意志決定が難しい事態に陥った時に、政治体制・身分階級の序列に加わらない人がその仲裁・査定を行うものとして制度化されてきたのがオンブズマン制度です。オンブズマンの発祥国は、スウェーデンであり、1809年の「統治憲章」で憲法上の機関として制度化された。このオンブズマンは、議会の任命により議会の代理人として行政を監視することを任務とする議会型オンブズマンでありました。今年で200年となる記念の年であります。

長崎から羽田、成田、そして日本とヨーロッパを結ぶ最短飛行距離のフィンランドのヘルシンキ国際国際（ハブ）空港に到着した。成田より7837kmあり9時間20分の時間である。いつも飛行機の中を歩き回るようにしている。最後尾が食材の在庫と客室乗務員の居場所となっていることが多いので、乗るたびに覗くようにしている。この機には何故か大きな急須が6個置いてあった。だいぶ前のことであるが、真夜中に歩いていた私は、お客は禁煙なのに喫煙されている美人の集団の方々と目が合いました。到着後、乗り継ぎ（トランスファ）の方向に向かうとペットボトルの山である。百CC以上の液体は持ち込めないで、手荷物検査前のテーブルに飲めなかった高価な梅酒を置いてきた。エスカレータを上がると入国前のショップがある。スタッフは胸に話せる言語の国旗が着いたネームプレートをつけているが日本語はない。時間があつたのでユーロに換えて、店を探索すると、コーラは2.5ユーロ（350円）であり、サンドイッチは7ユーロ（980円）だった。待ち時間の間にフィンランド航空機が名古屋と関空に向けて飛び去った。

時間が来たので入国手続きをして、鉄の扉をくぐると北欧の空港ショップの風景が広がっている。オープンテラスの飲食であり、日本とは全然雰囲気が違う。缶詰の



街角のオープンテラス



会議場前の広場風景



戦艦ヴァーサ号



アナン元国連
事務総長



会議場にて

ショップがあったのでのぞいて見ると、世界一臭い缶詰があった。遠く長く歩いて行くとテーブルだけのカウンターがあるだけで、パソコンで搭乗券をチェックする。搭乗して軽食を食べていると 1 時間あまりで着き、時差で出発した時間に着くことになる。

手荷物は長く待たされ不安であったが、バックが流れてきた時にはほっとした。次に入国手続と税関での手荷物検査と思い進んでゆくと、空港とストックホルムをつなぐエクスプレスの乗り口のチケット販売機の前に着き、スウェーデンの入国と出国のスタンプはパスポートにはない。

チケット自販機は現地語なので購入は何度か失敗。2 ～ 3 人を横目で見て勉強の成果で購入して、急角度のエスカレータを降りた。乗車と同時に車掌がチケットにボールペンでバツにて点検してくれた。首都までは 42 Km あるが 240 クローナの料金で 20 分で首都の中央駅に着いた。改札なしにホームから出て、すぐにタクシーに乗り、島を 2 つ越えて 30 分でホテルに着いた。タクシーはボルボのバンタイプが多く、次にベンツで乗り心地はよい。北欧はホテルが高いと聞いていたが、長崎市のホテルの 3 倍くらいになるようだが内容は日本が数段良い。11 時頃にならないと暗くならないし、午前 3 時前に明るくなるのでカーテンが必要である。ホテルの近くの店は早く閉まる。小さな窓口で注文を受けており、小さな窓から見える物しか買えなかった。ショップの少額支払いもカード決済が多く、レジに行列ができることが多いが、なかなか手のあいている店員が手伝いに来ない。

支払いは、札は手で渡すが、小銭は機械で渡したり、投入せよ と言う。お店は平日は、10 時から 18 時、土曜日は 10 時から 17 時、日曜日は 12 時から 16 時であるが日曜日はほとんど閉まっている。

カード決済は不安もあるが、手数料がない分安くなる。会議登録料が 5,000 クローナなので、カードで支払ったら 64,500 円で、クローナに換金して払うと 75,000 円である。カードは 1 本でいいと思っていたが、海外に出るように成って△△カードの指定がよくある。

初日は手続きのため、タクシーを利用したが、渋滞がひどくて 356 クローナかかった。初乗りは 45 クローナで夜間割増や時間で料金で、1 が通常で 2 を表示して



夕方には泡状になる。



国際会議場内



招待状



学園祭

いると割増である。受付登録して、資料・バッグ・記念品・セキュリティカードを受け取り、会議場の入口で同時通訳(5ヶ国語で日本語なし)のヘッドホンを受け取り会場に入る。日本からの参加は3名である。初日のオープニングセレモニーは、主催者、スウェーデン議会の歓迎スピーチ、合間に音楽が演奏された。午後から国連前事務総長のコフィー・アナン氏(ガーナ共和国)が「国家と個人」そして国連人権高等弁務官が「人権擁護のためのさらなる挑戦」と題しスピーチがあった。

昼食は地下のレストランでコース料理で歓談しながら食べる。会議は、コーヒープレイクが午前と午後にあるが、各種の飲み物からフルーツやケーキやお菓子やサンドイッチなど各テーブルに並んでいる。会議が終わり通る国際会議場の前の広場では、大きな鉄の玉を投げ合って老人たちがゲームしている。

夕食は、専用車でユールゴータン島にある17世紀処女航海で数百メートルほどで沈没した戦艦ヴァーサ号が展示されているVASA博物館に向かい、スウェーデン議会主催のレセプションに出席した。この地域は塩分が低いので保存状態が良く船体の装飾が特にすばらしい。時間をかけて説明を受け、夕食時に日本からの参加者と挨拶を行い、アメリカス・ウェーデン・カナダ・香港・などの参加者と飲食懇談した。

次の朝は、ジョギングしている黒人の青年に駅を尋ねたら連れって行ってくれて、乗り場まで案内してくれた。車掌は、乗換駅が近づいてきたら、わざわざ来て教えてくれた。おかげで片道40クロナで通うことができるように成った。中央駅まで郊外電車と地下鉄を乗り継ぎ毎日60分ほどかけて通った。スウェーデン人は、日本人に似ており、親切でやさしい国民である。人権を大事にする国で、助け合う社会基盤があるようで、建物や言葉など以外では日本にいるように感じられる。郊外電車や地下鉄は駅に着くやいなや乗り降りが済むとドアが閉まるので、最初は、次のを待っていたが、ドアのボタンを押して乗るようになっていた。盲導犬や介助犬ではないようだが犬もどんどん乗ってくる。

二日目の夜は、スカンセン野外博物館で、ガラスやパン工房など見学していると天皇皇后両陛下の訪問写真が貼ってあった。歩いて行くごとに白ワインなどの飲み物



青の間



黄金の間



青の間



カール16世グスタフ国王・王妃

が渡され、各テーブルには各種のつまみやサンドイッチなどが置いてあるので欲の深い私は、渡されるのはみんないただきお腹いっぱい。次に連れて行かれたのはレストランで、コース料理は全然食べられなかった欲深い思い出の所です。

次の日のホテルの朝食の時、日本からの団体があり、夫婦の方より声をかけられました。「日本人ですか」「はいそうです」、「何処からですか」「長崎からです」、「何処の旅行会社ですか」「ひとりの旅です」、「市庁舎に行きましたか」「明日行く予定です」と言ったら、「足を揃えて料理を運ぶなど」ノーベル賞での晩餐会の内容を一部始終、昨日の観光で説明を受けた内容を話されましたが、明後日に同様の招待を受けていますなどと、言っても信用されないと思ってしまいました。

次の日も三分科会が並行して開催され、午後はアジア、アフリカなどの地域ごとの会議の後、総会が実施された。夜はフリーなので6時に参加者と待ち合せの約束をして、パソコンルームでメールの確認と日本にメールを送信して、長寿食材探しの旅（市場）に向かった。いつも通る泡の公園には、鉄の玉を投げ合って、いつもの人たちが遊んでいた。

町の中央にあるヒュートリエットには花や果物や各種の食材の宝庫の市場である。大きな声での呼びかけで道行く人を呼び止めている。広場の前はノーベル賞授賞式のホールがある。初めて訪問した町は歩くようにしているので、ストックホルムは、おおよそわかってきた。日本はコンビニやガソリンスタンドなどはお手洗いどうぞと看板まで出しているが、町中には無料のトイレがなく10クローナかかる。サーモン関係の料理が多く寿司店もある。買い物すると食料品の消費税が12%で、出版物や公共交通は6%、他は25%であり、区分したレシートをくれる。国は増税を繰り返してきたが、国民が納得できる施策で還元してくれるので、国や議員に対しての信頼が特に厚いらしい。

午後6時にホテルで落ち合い日本料理店に向かい、日本酒を飲みながらカナダ留学時代の話や行政相談活動の話で時間を過ごした。

最終日は200周年記念に関するセミナーが催され、特にウクライナのニーナさんの活動には驚いた。大画面



市庁舎（シティホール）



黄金の間



青の間（ブルーホール）



パキスタンオンプズマンと

に映し出されるウクライナの活動ビデオは、同じ人間でもこんなにも違うのかと思い、自分の日頃の活動を見つめた。危険の中を勇敢に活動されている姿は特にまぶしかった。

このように世界各国のオンプズマンが直面する共通の課題を取り上げて、幅広い議論・協議を重ねて、その成果（オンプズマンツール）を持ち帰り、今後の活動に生かす目的の国際オンプズマン世界会議は幕を閉じた。

最終日はの夜は、専用車で市庁舎（シティホール）に向かった。入口で招待状を提示して、クロークに荷物を預け、音楽に迎えられ2階の黄金の間に案内された。当地はノーベル財団の所在地でもあり、平和賞以外の各賞はストックホルムで授与されます。

赤レンガ造りの宮殿のような建物で、ノーベル賞の晩餐会が毎年12月10日には、この広間で千人以上の人々が集まりノーベル賞の晩餐会が開かれるところです。2階は1900万枚の金箔とメーラレン湖の女王のモザイク壁画で飾られた黄金の間があり、授賞パーティーの舞踏会の会場になります。1923年にデンマークからの独立400周年を記念して建設され、出席者のロングドレスや高齢者を意識して階段の幅や高さや傾斜を考慮してあります。この市議会議員は別に本職を持っているため、仕事を終えたあとの夜間に議会は開催されるとのことでした。

2階で白ワインを味わいながら歓談すること1時間、1階の青の間（ブルーホール）に案内され、最前列の4番テーブルに着き、右隣のスウェーデン美女と歓談しながらカール16世グスタフ国王・王妃の到着を待ちました。前方の階段から入場されるのを立って迎え、メインテーブルの15番に国王、45番に王妃の席で着席されるまでと、退席されるときも同様に行った。ワインや料理などは一斉の配膳がなされ、全員の足並みが揃っている。スピーチと乾杯で始まり、3回ほどの演奏やコーラスが披露された。あつい皿や冷たい皿など交互に持ってくる。その都度、テーブルの担当者が、何か問題はないかと聞いてくる。デザートは花火をあしらい2階より降りてくるのは、まるで行進のようである。パキスタンとスウェーデンに挟まれた晩餐会は、日本人のわたしは人気は何故かあった。12時近くに終わり、2階に行くとミニ舞踏会があっていた。顔見知りの方々に挨拶して市庁



衛兵の交替式と騎馬兵



ノーベル賞受賞者の専用ホテルの
グランドホテル



国会



メーラレン湖の女王のモザイク壁画

舎前の橋を渡り中央駅に向かった。市庁舎は、クングスホルメン島にあります。中央駅から橋を渡ってすぐのところにあります。100万個の赤レンガ造りの宮殿のような建物で、狭い階段を登って行くとシンボルである塔の高さは106mあります。晩餐会の料理は、ノーベル賞晩餐会で献立を担当する市庁舎内のレストラン「スッタドヒュース・シェラレン」で味わえます。天井が高くて落ち着いており、飲み物・食器・料理も同じもので楽しむことができます。1901年にさかのぼってのメニューを選ぶこともできます。そして通算ナンバーの献立表がもらえるはずです。(2万円位)

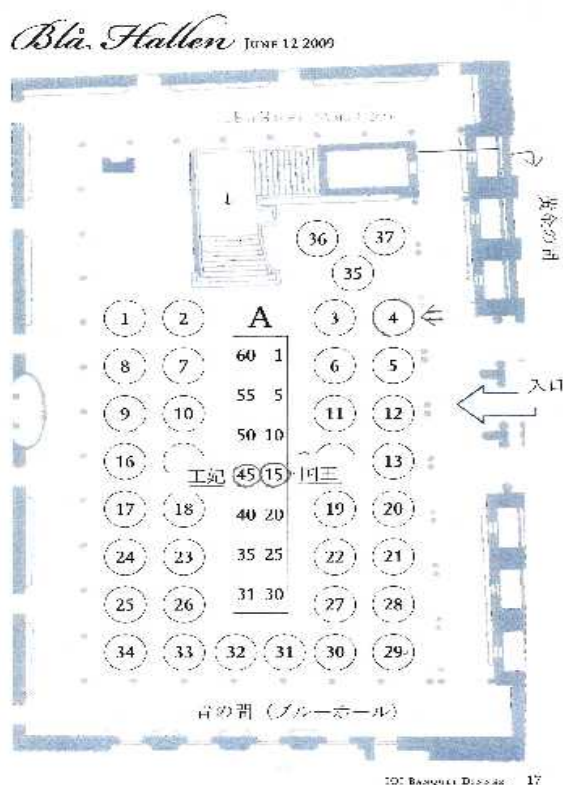
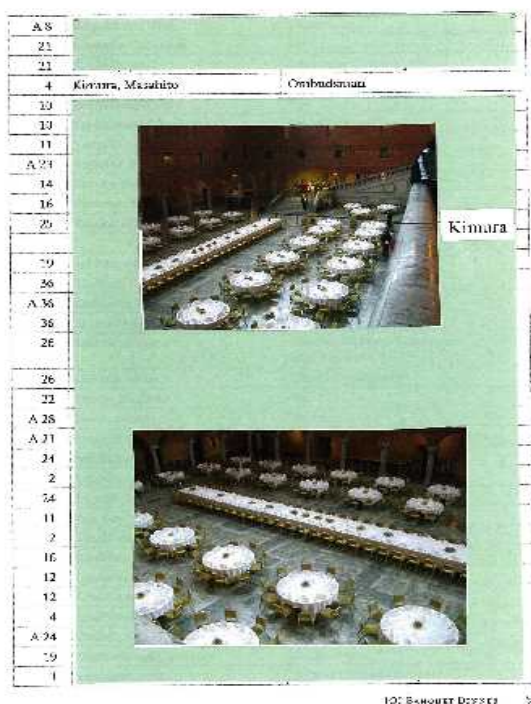
スウェーデンは、面積は日本の1.2倍あるが人口は920万人しかいない。ストックホルムは、北欧を代表する世界都市。人口は約75万人で「水の都」、「北欧のヴェネツィア」ともいわれ、水の上に浮いているような都市。北欧で最大の人口を誇り、バルト海沿岸では、サンクトペテルブルクに次いで第2位で、国土の半分は森林におおわれ10万の湖と何千もの島で形成している。EUに加盟しているが通貨は独自のクローナである。水は綺麗で治安がよく歓楽街がなく運転マナーもよく必ず横断するまで停止してくれる。交通事故対策も、さまざまなことが施されている。交差点にはロータリーが多用されているが、これによって小さな接触事故はあっても、大型事故は激減し信号機がロータリーでは使用しないため省エネになる。積雪寒冷地のため、被害を最小限にとどめるため市内の信号機はすべて縦型で、信号が見やすいようにランプは発光ダイオードを採用している。

スウェーデンとわが国との関係も古く、1868年のスウェーデン修好通商航海条約以来、2度の世界大戦中も国交は断絶せず文化交流、政府間交流も行われてきた。冬期はメキシコ湾流の影響で緯度の割には暖かい。生活協同組合の発祥の国でもあり、高福祉・高負担といわれる税金による財政運用は、国民の政治に対する信頼があるからこそ可能なのでしょう。ヘルゲアンズホルメン島にある国会は、正面左右に議席配列模型の電光掲示板があり、議員個々の賛成・反対・棄権・欠席のランプが瞬時に表示され情報公開先進国としての仕組みがある。

この国は、自然災害や侵略や占領も見舞われていない貴重な都市であるが、湾、湖、運河と入り組んでおり全

部湾ではないかと思ってしまう。インダストリアル・ホリデーには家族揃って30日ほどセカンドハウスに出かけるらしいです。ホテルには8日間滞在したが、暇なときには翻訳機を脇に抱え英語ができないわたしに、支配人はやさしく対応してくれました。

次の日は、中央駅から歩いて、ガラスの塔と噴水が中央にあるセルゲル広場を過ぎて、もとは王室の料地であった王立公園を通して議会と王宮に向かった。海沿いの小さな首都で、風が強く吹いている。至る所に鳥がいるので天気がいいと海鳥の羽毛が町中を飛んでいる。雨が降っても傘を持っていなくて、雨の中を悠々と歩いている人が多い。滞在中は雨が多く折りたたみ傘を持ってきて本当に良かった。スタッツホロモン島にある13世紀の町並みがのこるガムラスタン（旧市街）に着き、こじんまりした土産物店を見て回り、国王に関係したグッズを購入した。そして16世紀に建設され600室ある王宮を時間をかけて見学した。衛兵の交替式に偶然出会い、ゆっくり観覧できたが、雨風の中、各施設の入口に立つ衛兵は少しも動かないで大変である。そして宿泊者の国旗が掲揚されるグランドホテルの前より遊覧船に乗り、水の都を堪能し、翌日は帰国の帰路に着いた。アーランド空港からヘルシンキ空港を経由するが、預ける荷物が会議資料や記念品や研究書やレポートなどの重たいものばかりなので、係員が超過料金が高いので20kg以内と言うので、3つの荷物を手で持つようにした。ヘルシンキで出国手続きをして3回飛行機を乗り継いで28時間で自宅に着いた。



■市庁舎の青の間（ブルーホール：ノーベル賞受賞者晩餐会と同会場）の写真で、写真の奥が階段。右が席表でAのメインテーブルのN015に国王、N045に王妃を迎えます。入口は右側で、手前で430名の出席者名簿（参加者は356名だが、夜だけは事前登録していれば同伴者も）・席表・メニューが記載されている26ページにも及ぶ「記念式典とお別れ晩餐会」の冊子を受取り、音楽に迎えられ階段をのぼり入口で白ワインをもらい黄金の間にはいりました。1時間後、最前列のN04のテーブルに案内され両陛下を待ちました。初めてなので席に座っていると、同テーブルの方やそれらの友人やその方と同国の方や関係者が次々に席に来られ挨拶いただきました。その中には世界的な著名の方々が多くいらっしゃいました。

■あとがき（見聞記）（2009年1クローナ15円）（数字は参考程度をお願いします）

スウェーデンの首都ストックホルム（Stockholm）は、約75万人（国は920万人）で、「水の都・北欧のヴェネツィア」ともいわれています。北欧で最大の人口を誇りバルト海沿岸では、サンクトペテルブルクに次いで第2位の都市です。1912年に第5回夏季オリンピックが開催されています。

ストックホルム市内中心から、二つ目の島のホテルに宿泊しました。会議場に毎日、徒歩・郊外電車・地下鉄・徒歩の60分かけて通いました。昔のアメリカンスタイルのホテルには8日間滞在したが、廻りには何もないので、暇なときには翻訳機を脇に抱え英語ができない私に、やさしく支配人は対応してくれました。ネットで検索した資料や雑誌を持って行きながら話を聞いたことの概要です。

■スウェーデン国王 カール16世グスタフ国王（1973年9月即位）

■議会 一院制（349議席 任期4年）

■政府 非社民連合4党連立政権（2006年10月成立）

■消費税

スウェーデンの消費税は高い！25%！この数字ばかりが一人歩きしています。実際はスウェーデンの消費税にも3段階あり25という数字はそのうちの一番高い税率のことです。

出版物・公共交通：6% 食料品：12% それ以外のもの：25%

スウェーデンで買い物をするときには、ほとんどの商品で内税表示がされている、つまり、消費税が既に含まれた形で値段が表示されている。実際に清算するときには、総額に占める

消費税の内訳が、 6%消費税の分が、××クローナ

12%消費税の分が、××クローナ

25%消費税の分が、××クローナ と、3段階ごとに表示される。

ただ、営業時間が短いので、会議や食事会で遅くなると、1時間かけてホテルに帰るのでなかなか買い物ができない。コンビニなどもあるが、ひとつの量が多い。ホテル近くのショップは、横が石油スタンドで20時頃に閉まるが、22時頃までは、小さな窓で対応する。まだ明るいので、バイクや自動車の間を視線を受けながら通り抜けて窓口に行くと、店に入店したことがなかったので、小さな窓口で見える範囲の商品しか注文できなかった。

8日通ったが、店員が違うので、カジュアルで行くと、○国人か、△△人かと聞くが、フォーマルなら日本人かと聞いてくれてホットした思い出がある。市の中心地にホテルがいくつもあるので、何故このあたりにいるのか、何しに来たのか、しきりに聞いてくる。

事務所に、20代・30代・40代の独身美女が3人いるので、土産を買いに老舗百貨店に行きました。鮭やトナカイの肉は地下の食料品売り場に豊富にあるが、チョコレートや菓子類はフィンランドやオランダ製品ばかりなので、大きな木箱の中に高級そうに並べてあったので取りレジに持って行った。お姉さんがレジ袋が必要かと聞くので、手提げ袋をくれと言った。レジ袋は有料で25%の消費税の対象と成っているが、紙袋は無料だった。

ストックホルム市の中央に市場のような所（広場）があり、長寿食材を探し回ったが、フルーツや花が中心である。小さいリンゴは何処にも置いてあり自販機にも入っていた。会議の合間のコーヒブレイクの10時と15時頃には、ロビー全体のテーブルに、各種飲み物・各種フルーツ・サンドイッチ・ケーキ・お菓子など各テーブル20台ごとに違った食材が乗っており、欲の強い私は軽やかな足取りでテーブルを廻り歓談しながら賞味三昧の休憩時間でした。



◆国際会議場前の広場で遊ぶ少女たち◆



◆2台分のバス、女性の運転手が多い。



◆ガムラスタン

◆王宮のあるスタッホルメン島、リッダーホルメン島・ヘルゲアンズホルメン島の3島はストックホルム発祥の地。



◆自動販売機◆コイルに商品を挟んでおり、無造作に入れてあるので、落ちてくるか見る度に心配でしたので、食べないのによく買いました。小リンゴ・菓子・飲料水など、多種の商品が入っている。



ウクライナの Nina Karpachova さん



市庁舎専属音楽隊

1. 各種の税（2009年1クローナ15円）（数字は参考程度にお願いします）

- ・税金はもう一つの貯蓄で将来の老後や病気の時の安心を買うためである。
- ・増税の時は、払った分だけサービスを還元してきたので、国民は政治家を信頼している。ひとたび約束を守らないと信頼をなくし次回は淘汰される。

1. 教育

- ・小学校低学年から英語の授業があり、英語がよく通じる。
- ・各国の言葉をあやつる人材が増えたら、国力になるからだ。
- ・教育は無料で、給食費もなく、大学も無料なので日本のように貯蓄や奨学金や進学ローンも借る必要がない。

★ストックホルム症候群とは、精神医学用語の一つで、犯罪被害者が、犯人と一時的に時間や場所を共有することによって、過度の同情さらには好意等の特別な依存感情を抱くことをいいます。

1. 年金

- ・所得比例年金で、最低月額 5 9 6 0 クロナが支払われ、少額払った人も、支払わなかった人も支払われる。

1. 介護

- ・市が運営しており、在宅介護が中心で、建物を造らない分、訪問介護を充実させている。
1 日 6 回公務員の介護士と看護師が連携して見ている。緊急用の装置も充実している。

1. 医療費

- ・1 8 歳まで無料。県が運営しているケアセンターで、一次検診し、病院にかかるか判断し、医療費の拡大を抑制している。1 回の診療 1 0 0 クロナで年間 8 0 0 クロナを超えた分は無料。医療機関の医療の差は少ないらしい。

1. 交通機関

- ・バスはなどおおよその車両には低床かつ車椅子やベビーカーのスペースがある。
- ・道路は渋滞するので、地下鉄や郊外電車を利用した方が経済的である。駅には路線マップがあるので行き先を車掌に指させばよい。自動販売機での買い方がわからない場合は、現金窓口があるので、そちらが簡単だと思う。買った時に日付を確認する。何故なら切符は回収しないので再使用と思われるので注意する。乗り換えもその現金窓口に提示して通過する。
- ・タクシーは高いが、ボルボやベンツなので乗り心地は良い。ワゴンタイプが多いので荷物の多い私には良かった。

1. 市議会と市会議員・国会と国会議員

- ・国会議員の年収は 5 7 万クロナ（日本 2, 1 5 0 万円）で、公用車などない。国民の目線で働いたり行動しないと信頼をなくし次回は淘汰される。
- ・ストックホルムの市議は 1 0 1 人おり、女性が半数いる。本業を持っており、議会は平日夜間に行われる。政党が前面に出るため、政策の選挙です。政党の公認というフィルターにかかるので、地域ビジョンや政策構想の上に、強い信念とやる気がないと通用しないようです。
- ・市庁舎には、2 0 0 名を超える職員がいるが、住民関係などは市の管轄ではなく税務署なので会うことが少ない。議場も市庁舎の中にあり、市長がいないので対外的には市議会議長が職務を兼務する。これは、市が国の出先機関になっているという見方と、議会の長が同市を代表することから徹底した民主主導という見方とある。
- ・公費を使用した場合、領収書等も保存保管され収支については、誰でも（外国人でも）自由に閲覧できるように成っている。
- ・国は所得保障と外交と防衛、県は医療、市は教育と福祉と道路整備とゴミ処理等多岐にわたっている。

1. 雇用・労働

- ・人口が少ないので、完全雇用を推進。育児休暇、給料の保障に充実。
- ・女性のハンディーを取り除くことで、女性の職場進出を促している。
- ・電車や地下鉄の運転士の多いのに気づいた。

1. 国際競争力 3 位（日本 7 位）

- ・女性のハンディーを取り除くことで、女性の職場進出を促している。1 0 名以上の従業員を雇用している会社で、男女の比率が悪いと、オンブズマンから改善を指摘されるというのだ。もちろん定年制における差別も許されない。スチュワーデスやテレビキャスターも、かなり高齢の女性が働いている。
- ・電車や地下鉄の運転士の多い。会社も同じだが経営方法として、一部の優秀な人間で国を作る。全員の力（全員野球）で国を作る。スウェーデンでは、後者を選び国力を上げている。これらを支えるためには海外から持ってこなければならない、維持して行くには別の苦労があるようです。



国王・王妃を迎える

	一般消費税	食料品に対する消費税
デンマーク	25	25
スウェーデン	25	12
ポーランド	22	7
ポルトガル	21	5
アイルランド	21	0
イタリア	20	4
フランス	19.6	5.5
ギリシャ	19	9
エストニア	18	18
イギリス	17.5	0
ドイツ	16	7
スペイン	16	4
キプロス	15	5

各国の消費税



スウェーデン美女との交流（上中央）



左の写真で握手しているお隣の美女(右)



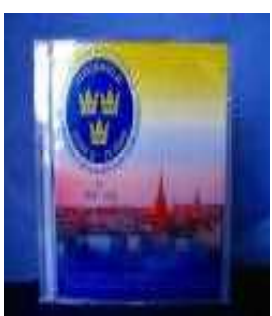
お別れ晩餐会でグラスを（右下）



青の間（ブルーホール）



王宮

		
貴重で重たい記念品と世界の貴重資料集	お別れ晩餐会の冊子	
		
アナン前国連事務総長	アメリカ／カナダ／カンビア共和国	
地球上には不思議とくつろぎ、気が満ち、力がみなぎりパワーがもらえる場所がいくつかある。宇宙と自然（じねん）と自分との一体感の中で自分の魂が洗われてゆくことに気づく空間。古代より聖地や寺院や教会はそんな所に建っていることでもわかる。 北欧の風に吹かれていると、見はるかす地平の向こうに、幻かも知れないものを求めて、また地球を歩き続けることにしました。		
 (Kimura Masahito)	 携帯サイト  ロゴマーク	■【著者】木村優仁 長崎県南島原市生まれ ・お問い合わせ先 P C Mail arie@minamishimabara.com 携帯 Mail international-ombudsman-1809@softbank.ne.jp 固定電話 0957-82-5923 携帯電話 090-1362-0138 P C サイト http://www.minamishimabara.com 携帯サイト http://www.minamishimabara.com/m/
	■ 2012年4月1日発行【風に吹かれて地球を歩く】 発行者 木村優仁 発行所 アンデス生物食文化研究所 〒 859-2205 長崎県南島原市有家町小川長寿村1丁目1番地 電話 0957-82-5923 URL http://www.andes-wind.com/sweden.html 印刷製本 NOP 法人障害者自立支援センター	
ストックホルム市庁舎 黄金の間メーラレン湖女王の前で		